

## 名駅西を歩く

5月17日レポートで「リニア名駅用地 買収難航」という朝日新聞4月14日朝刊の記事を紹介した。JR東海はリニア中央新幹線「名古屋新駅」をつくるために、現在のJR名古屋駅端を東西約1kmにわたり用地買収する。過去に例のないような都心部での大規模な用地買収だ。買収予定地の東側は歩いたが、久しぶりに名古屋駅の西側、「駅西」を駆け足で回った。駅の東側の広小路口と違って、太閤通口の駅西には、「昭和」を感じさせる独特の雰囲気がある。



名駅の雑踏を抜け、「椿神社」まで行った。ここが新駅の西の端にあたる。緑に覆われ、喧騒の繁華街の「オアシス」だ。この日は30度を超える暑さだったが、ここは涼しさを感じることができた。神社から西は、中村区役所に向け「駅西銀座」が続く。



神社の横に「JR東海事業用地」という看板がかかった空き地があった。ここが先の記事でも紹介



されていた「リニア中央新幹線の駅建設のため、JR東海が取得した土地」であろう。連絡先は「中央新幹線愛知工事事務所」と書かれていた。ここから東にJRセントラルタワーズなどの超高層ビルが見える。

名駅のほうに歩くと、飲食店やカフェなどが密集している。「ファッションヘルス」の看板も見える。いわゆる風俗関係の店も並んでいる。店の前には、「客引き」らしき人がたむろしていた。夜には、もっと違う雰囲気になるのだろう。名駅周辺に「客引き」が増えて、通行人から「苦情」の声も出ているようだ。

駅西は駅東に比べて、雑居ビルが多く、小規模で多様な商業店舗が密集している。先の記事でも、地権者との交渉の委託を受けた、名古屋市の外郭団体「名古屋まちづくり公社」担当者は、土地の権利関係者が「横にも縦にも広がり複雑」と述べていた。実際に現地を歩いて、そうした実感をもつことができた。

(2016年6月14日)